

令和3年度

東アジア文化創造 NARA クラス 事業報告書

令和3年8月～11月

奈良市 文化振興課

東アジア文化創造 NARA クラスについて

■ 東アジア文化創造 NARA クラス

「東アジア文化創造 NARA クラス」は、2016 年の東アジア文化都市における日中韓交流事業の成果を未来へと繋いでいくため、大学生や高校生等を対象とした国際文化交流プログラムである。

平成 29 年度から実施しており、奈良市内でさまざまな分野についての学びを深める「東アジア学びの扉」、中韓から大学生や高校生等を招き交流を行う日中韓交流プログラム、さらに現地に渡って学生たちと交流を行う海外渡航プログラムを行ってきた。

■ 令和 3 年度プログラムについて

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により各都市への渡航プログラムの開催が困難となったため、各都市で協議を行い、3 都市共催のオンライン交流プログラムとして実施することで事業を継続した。

東アジア文化都市 2016 奈良市

「東アジア文化都市 2016 奈良市」では、事業の柱となる「基幹事業」、中国・韓国のパートナー都市とともに開催する「交流事業」、奈良の既存のポテンシャルを生かしさまざまな事業と連携し発信する「連携事業」、そして、東アジアの文化をテーマとした「シンポジウム」で構成。

「交流事業」では、パートナー都市である、中国・寧波市、韓国・済州特別自治道とさまざまな分野において文化交流を行った。

目 次

事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
各プログラム紹介・・・・・・・・・・・・・・・・	2
参加者アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・	13
令和3年度事業 成果と課題・・・・・・・・	15

事業概要

参加者応募・選考について

応募資格：奈良市内に在住・在学・在勤の15歳以上25歳未満の方。（中学生をのぞく）

募集期間：令和3年7月1日（木）～令和3年8月10日（火）

○応募者 (人)

結果	高校生	大学生	合計
選考通過	4	8	12
落選・辞退	0	0	0
合計	4	8	12

※選考通過者のうち1人辞退

○参加者

日本 奈良市：11人（大学生7人 高校生4人）

中国 寧波市：12人（大学生5人 高校生7人）

韓国 済州特別自治道：10人（高校生10人）

プログラムスケジュール

8月28日（土）	参加者ガイダンス、3都市交流スタートプログラム
9月11日（土）	リモート型グループワーク①
9月25日（土）	3都市音楽交流プログラム
10月9日（土）	奈良市アート体験ツアー
10月23日（土）	3都市書道交流プログラム
10月30日（土）	リモート型グループワーク②
11月13日（土）	3都市交流プログラム 成果発表会

各プログラム紹介

令和 3 年度事業について

平成 29 年度の開催から 5 回目の実施となる令和 3 年度事業については、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、渡航を伴わないオンライン開催とした。

各都市が企画する交流プログラムを順番に開催するとともに、日中韓参加者を 5 つのグループに分け、オンライン会議システムを使用したグループワークを 2 回行った。

日中韓の参加者たちはスタートプログラムにおいて顔合わせを行った。次に、済州特別自治道が企画した 3 都市音楽交流プログラムと、寧波市が企画した 3 都市書道交流プログラムに参加し、音楽や書作品の制作を行った。また、グループワークを 2 回行い、グループ内での親交を深めた。最後に、プログラムの集大成として、成果報告会を行い、各プログラムの成果を発表した。

また、交流プログラムとは別に国内プログラムとして、参加者の表現力向上につなげるべく、市内の音楽や書道に関する場所の見学やワークショップ等を実施した。

なお、日中韓 3 都市で各プログラムの企画を分担し、企画を担当した都市が進行を担うこととした。

【3都市交流プログラム】

日中韓の参加者が一斉に参加するオンライン国際交流プログラム。

- [1] 3 都市交流スタートプログラム（企画・進行：奈良市）
- [2] 3 都市音楽交流プログラム（企画・進行：済州特別自治道）
- [3] 3 都市書道交流プログラム（企画・進行：寧波市）
- [4] 3 都市交流プログラム 成果発表会（企画・進行：済州特別自治道）

【グループワーク】

日中韓の参加者が、自宅等からオンライン会議システムで参加するグループワーク。

- [1] リモート型グループワーク①（企画・進行：奈良市）
- [2] リモート型グループワーク②（企画・進行：奈良市）

【その他】

- [1] 参加者ガイダンス（奈良市国内プログラム）
- [2] 奈良市アート体験ツアー（奈良市国内プログラム）

参加者ガイダンス、3都市交流スタートプログラム

日 時 令和3年8月28日(土) 10:30~16:10

場 所 奈良市：各参加者の自宅・学校等 寧波市：会場中継 濟州特別自治道：各参加者の自宅・学校等

参加者 奈良市：9名(2名欠席) 寧波市：12名 濟州特別自治道：10名

内 容

<参加者ガイダンス(奈良市参加者のみ) 10:30~12:00>

文化振興課長 森 光子(もり みつこ)より挨拶を行った後に、事務局よりプログラムの詳しい説明を行った。その後、中韓パートナー都市の説明と令和2年度のオンライン交流の様子を紹介し、参加者たちが自己紹介を行った。参加者たちは緊張している様子だったが、中韓との国際交流に対して意欲的であった。

続いて、午後のスタートプログラムで行われる日中韓対抗都市紹介クイズの説明を行った。クイズに参加する出題者・解答者を誰にするか等の調整やリハーサルを行い、交流プログラム参加への準備を整えた。

<3都市交流スタートプログラム 13:30~16:10>

■ 交流プログラム開始 (逐次通訳)

3都市交流スタートプログラムは、奈良市の進行により行った。スタートプログラムの冒頭に、奈良市からは中川 昌美(なかがわ まさみ)市民部長、寧波市からは文化広電旅遊局副局長 邱 金岳(きゅう きんがく)氏、濟州道からは文化体育対外協力局長コ・チュンファ氏にご挨拶いただいた。

■ 参加者自己紹介(英語)

日中韓の各参加者が英語で自己紹介を行った。一人ずつ自分を表現するアイテムを持ちながら名前や趣味等を話した。中には好きなアーティストや漫画を紹介した参加者や、自身がダンスをしている様子の動画を紹介した参加者もいた。また、日中韓参加者の中には日本語や中国語、韓国語を勉強している参加者もあり、それらの言語を使いながら自己紹介を行っている場面がみられるなど、各都市参加者からも、これからはじまる交流プログラムへの期待が感じられた。

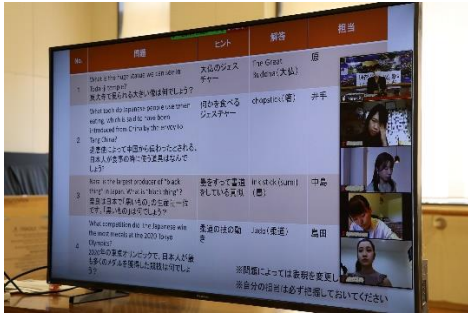
■ 日中韓対抗都市紹介クイズ(英語)

3都市の交流を深めるため、奈良市、寧波市、濟州特別自治道それぞれの都市に関するクイズを出し合った。クイズは奈良市、寧波市、濟州道の順に出題し、奈良市の参加者は事前に作成したクイズフリップを使い、問題の出題と正解発表を行った。また、各都市からのクイズにも解答した。

オンラインということもあり、3都市間での意思疎通が難しいと感じる場面もあったが、参加者自身がクイズ問題を出し合ったことで、お互いの都市への関心が高まったと考えられる。

■ 今後について（逐次通訳）

最後に各都市担当者から今後のプログラムについての説明を行い、スタートプログラムを終了した。



リモート型グループワーク①

日 時 令和3年9月11日(土) 10:00~16:00

場 所 各参加者の自宅・学校等からテレビ会議システムを使用

参加者 奈良市：8名(3名欠席)、寧波市：10名(2名欠席) 済州特別自治道：10名

内 容

日中韓の参加者がA~Eグループに分かれ、複数のテーマの中から一つを選択し、そのテーマをもとに話し合った。また、グループワークにおいてリーダーと発表者を話し合いで決めた。

(テーマ) ①コロナが終息したら一番やりたいこと ②外国人に紹介したいこと(地元の伝統文化やグルメ等) ③一番好きな音楽(プレイリスト等) ④時間がある時にしていること ⑤もしタイムトンネルがあればどの時代に行きたいか(過去或いは未来)

■ A グループ

「一番好きな音楽」というテーマを選択し、それぞれの好きなアーティストと曲について、順番に紹介した。K-pop や J-pop、クラシックなど、様々なジャンルの曲が挙げられ、それぞれが好きな曲についてメンバー同士で共有した。

■ B グループ

「一番好きな音楽」というテーマを選択した。それぞれがよく聴く音楽のジャンルや好きな歌手についてまず発表し、それらを聴くことでどういった気分になるかということや、音楽を聴くことの効果について発表があった。

■ C グループ

テーマについて話し合う前にリーダーを決め、その後自己紹介として、自分が好きなことについて話し合った。語学を得意とする参加者が多く英語による進行がなされていた。

■ D グループ

「一番好きな音楽」というテーマを決め、グループメンバー同士で好きな曲を二曲ずつ発表し合い、曲の感想も述べ合った。成果報告会に向けての準備についても話し合った。

■ E グループ

「一番好きな音楽」というテーマを決め、それぞれの好きなアーティストなどの歌を紹介し合った。グループメンバーのうちの一人が、動画編集が得意ということで成果発表は動画で行うことになった。

3 都市音楽交流プログラム

日 時 令和3年9月25日(土) 14:00~15:40

場 所 奈良市：各参加者の自宅・学校等 寧波市：会場中継 濟州特別自治道：会場中継

参加者 奈良市：6名(5名欠席)、寧波市：10名(2名欠席)、濟州特別自治道：10名

内 容

■ 3都市参加者による出し物の披露・感想発表

参加者それぞれの趣味・特技を披露する動画を鑑賞した。奈良市の参加者は、ピアノやウクレレなどの楽器演奏動画を披露し、中韓参加者は、個人やグループで歌やダンス、手作りの絵本の紹介を披露した。

参加者たちは、多様な趣味・特技の鑑賞を楽しんでいる様子であり、お互いの演目について感想を発表した。

■ 作詞体験プログラム

3都市音楽交流プログラムは、濟州特別自治道の音楽家が作曲したオリジナル曲「心が歌う風」に、各都市の言語で歌詞を創作するものであった。

曲の1番を奈良市参加者が日本語で作り、2番を寧波市参加者が中国語で、3番を濟州特別自治道参加者が韓国語で作詞した。

中韓参加者と違い奈良市参加者は各自自宅等からのリモート参加であったため、意見交換が難しく、すべての歌詞を完成させるには至らなかった。未完成の部分については、各都市で進めることとし、完成した歌詞で各都市の参加者が歌う動画をプログラム成果として作成することとなった。

■ 参加者感想発表

本プログラムの感想発表を各都市参加者が行った。参加者たちは各都市参加者が動画で披露した演目に対する感想や、初めて経験する作詞の難しさについて述べた。



奈良市アート体験ツアー

日 時 令和3年10月9日（土） 9:30～16:30

場 所 奈良市内各所（西大寺、杉岡華邨書道美術館、ならまちセンター）

参加者 7名（4名欠席）、特別参加の中国人留学生：2人

内 容

■ 書にまつわる講座、書道体験

午前中は西大寺を訪れ、佐伯俊源氏（西大寺清浄院住職・久修園院住職・種智院大学教授[人文学部長]）による書にまつわる講義を受講した。その後、参加者各々で写経体験を行った。

■ 杉岡華邨書道美術館見学

午後は杉岡華邨書道美術館を見学し、学芸員の話聞いた後に書道展示作品を鑑賞した。美術館内に書道体験コーナーがあり、参加者たちはそこで好きな漢字などを書いて楽しんだ。

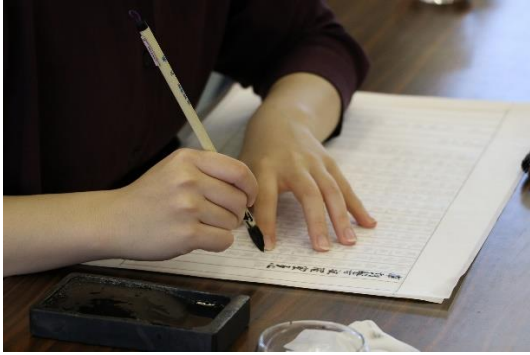
■ 音楽ワークショップ

ならまちセンターの多目的ホールでパーカッショニストのステイーヴ・エトウ氏による音楽ワークショップを行った。まず音楽によるコミュニケーションの面白さを体験するため、ワークショップの冒頭は楽器演奏で始まった。参加者たちは突然はじまった演奏に最初は戸惑ったものの、講師に促され打楽器のセッションに加わり、音楽表現を楽しんだ。

最後に、3都市音楽交流プログラムでの宿題となっていた歌詞づくりと合唱動画の撮影を行った。

丸一日のプログラムであったが、これまでのプログラムがすべてオンラインであった奈良市参加者同士は初めて直接会うことができ、積極的に交流しているようであった。また、普段あまり触れる機会がない書道や打楽器のワークショップに参加し、書道や音楽の面白さを感じるだけでなく文化への理解を深めている様子であった。





3 都市書道交流プログラム

日 時 令和3年10月23日(土) 14:00~16:00

場 所 奈良市：各参加者の自宅・学校等 寧波市：会場中継 濟州特別自治道：会場中継

参加者 奈良市：8名(3名欠席)、寧波市：12名、濟州特別自治道：10名

内 容

■ 書道に関する紹介

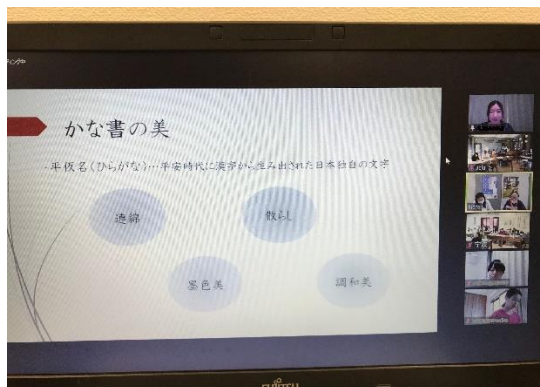
各都市による書道家や書の名作紹介を行った。奈良市参加者からは奈良を代表する書道家 杉岡華邨氏と代表作品を紹介した。その後、寧波市が書道にかかわる名所「天一閣」の紹介映像を披露した。

■ 基礎講座、作品の完成

寧波市の講師より、最初に筆の持ち方といった基礎的なことを教わり、その後、参加者は自身が好きな言葉をしたためて書作品を完成させた。作品を披露し、感想も述べ合った。奈良市参加者の中に書道部の参加者がおり、作品披露の際に他の参加者から賞賛される場面があった。参加者たちは書道を体験することで伝統文化への関心を深め、同時に友好関係を育んでいる様子であった。

■ 感想発表

最後に、各都市参加者による本プログラムの感想発表を行った。参加者たちは各都市参加者が書いた書作品に対する感想や、日中韓3か国共通の文化である書道の交流で学んだこと・得たものについて述べた。



リモート型グループワーク②

日 時 令和3年10月30日(土) 10:00~16:00

場 所 各参加者の自宅・学校等からテレビ会議システムを使用

参加者 奈良市：10名(1名欠席)、寧波市：12名、済州特別自治道：10名

内 容

前回のグループワークの続きとしてテーマに沿って話し合い、発表の準備を進めた。

■ A グループ

前回話し合った内容を振り返り、PPTによる発表者と役割を決めた。また、好きな音楽とその理由、どんなシチュエーションで聴くのかについても話し合った。

■ B グループ

発表形式と発表動画の作成について話し合い、各都市が担当する曲を決めた。

各都市でそれぞれ50秒ずつ動画を作成し、それらを組み合わせて一つの動画とすることにした。

■ C グループ

自分が好きなことや趣味について紹介し合った。発表者や発表で使用するPPTの内容確認を全員で行った。

■ D グループ

グループリーダーは決めずに全員でPPTを用いて発表することにし、好きな曲と発表の内容について話し合った。

■ E グループ

寧波市参加者が作成した動画を全員に披露した。動画の再編集が必要な箇所を話し合い、発表に向けて準備を進めた。

3 都市交流プログラム 成果報告会

日 時 令和3年11月13日（土） 14:00～17:00

場 所 奈良市：BONCHI 3 階会議室 寧波市：会場中継 濟州特別自治道：会場中継

参加者 奈良市：9 名（2 名欠席）、寧波市：12 名、濟州特別自治道：10 名

内 容

■ 成果報告会開始（逐次通訳）

成果報告会は濟州特別自治道が進行を行った。

冒頭に、奈良市から中川 昌美（なかがわ まさみ）市民部長による挨拶を行った。また、寧波市からは寧波市天一閣博物院院長 庄 立臻（しょう りつしん）氏、濟州道からは濟州道文化芸術財団経営企画室室長 ジョウ・モンチョル氏、駐濟州日本国総領事館からは総領事 井関 至康（いせき よしやす）氏、駐濟州中国総領事館からは総領事 王 魯新（おう ろしん）氏にご挨拶いただいた。

■ 成果報告（英語）

各グループからグループワークのなかで意見交換をし、共有した内容について成果報告を行った。PPT による発表や動画による発表などがあり、グループごとの特色が明確であった。発表者は緊張している様子だったが、楽しんでいるようであった。発表時のトラブルに対しても参加者自身が相互にコミュニケーションをとりながら解決し、発表を終えることができた。

その後、各都市2人ずつ参加者代表から挨拶を行った。

■ フィナーレ（逐次通訳）

濟州事務局が作曲したオリジナル曲「心が歌う風」を各都市参加者が合唱している様子をおさめた動画を流した。成果報告会において、3都市の参加者が各国の言語で作詞した曲が完成することとなった。

最後に全参加者で合唱を行った。参加者は少し恥じらいながら合唱し、中韓参加者との別れを惜んでいるようであった。

成果報告会の終了後は、奈良市参加者から一人ずつ感想発表を行った。「オンラインであっても国際交流できることを体験できた」「グループワークやワークショップを通して、奈良の魅力を再確認できた」「異文化圏の人とコミュニケーションをとる難しさを感じた」といった感想があった。

奈良市参加者が作った歌詞：

おだやか いちにち きもちのいいひになる
きれいな ならこうえん どこでもしかがいます

ならしに きたなら あなたにあいたいよ
ならしに きたなら いっしょにあそびましょう

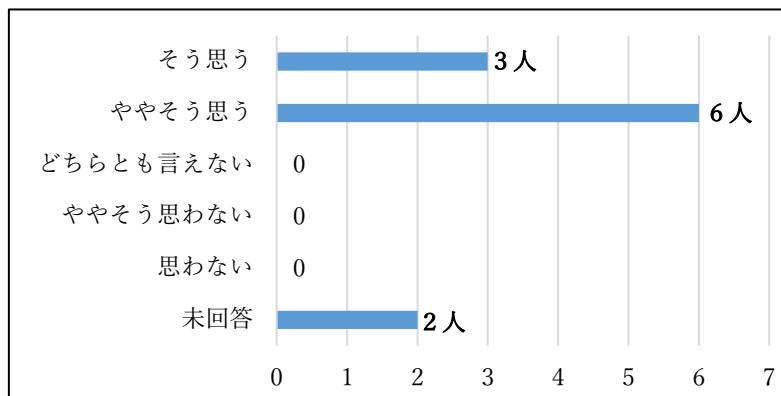
おだやかはるのかぜ
ひらりとまうさくら
みんなのだいぶつさん
にこにこみまもっている

あえない さびしさ のりこえるぼくらは
いまから あえるひを たのしみにしてるよ

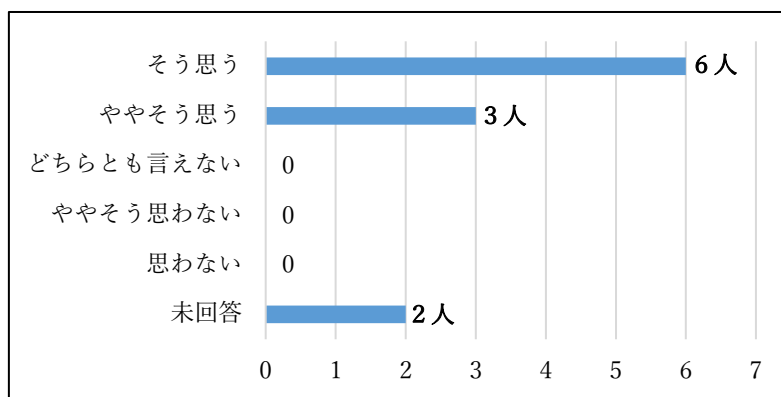


参加者アンケート

①外国語のスキルや積極性など、国際的に活躍するために必要な能力をつけられたと思いますか？



②音楽や書道などのプログラムを通じて、自己表現力をつけられたと思いますか？



③本プログラムを通じて自身が学び得たこと

参加者 1：中国語や韓国語を学校で学ぶだけでは得られない経験ができました。現地の学生との交流を通じて隣の国の人々の考え方や文化に対する理解が深まりました。また奈良だけの写経体験や打楽器ワークショップも、自分の感性を豊かにする良い機会になりました。

参加者 2：まず、2ヶ国の学生さんの英語を聞いて、私ももっと勉強しなければいけないと感じました。書道プログラムでは初めて写経をしましたが、自分でも知らない領域というか、精神統一して心に休憩させるということをしたことがなかったので、とても新鮮でした。音楽でも、私はリズムに合わせて演奏しかしたことがなかったので、自分の殻を破ったような気持ちです。

参加者 3：他の国の同世代の子たちの能力を身をもって実感することができました。中国や韓国の子たちは自分の国の言語以外にも話せる方が多かったので、私も見習わないといけないと思いました。また、中国や韓国の良さはやはり自分で勉強するだけでは

感じ取ることが難しいと分かり、オンラインであっても実際に関わることが大切なのだと思います。

④今回の経験や交流をどのように生かしたいか

参加者 1：今回、中韓の参加者がとても日本の文化に詳しいことを知り、好奇心を持って、近隣国の文化を学んでいこうと思いました。また英語での会話は文法などができていなくても、ジェスチャーや簡単な単語を用いても行うことができたので、今後留学などの機会があれば、積極的に話そうと思いました。

参加者 2：まずは語学の勉強の必要性和積極的に発言できる力が絶対的に必要だと分かったので、それらを向上させることができる活動に取り組みたいと思います。これから就活で忙しくなるのですが、その合間の時間に他国について知られる活動を必ずしていきます。

参加者 3：同じグループの韓国の方とメールで交流したのですが、話すテンポ感の違いを感じました。実際に話すのとイメージするのでは全くちがひ、これは参加して初めて分かることだと思います。次、海外の方と交流する時にもっとポンポンと会話をつなげられるように生かしたいと思います。

⑤来年度以降、オンライン交流プログラムでやってみたいと思う企画

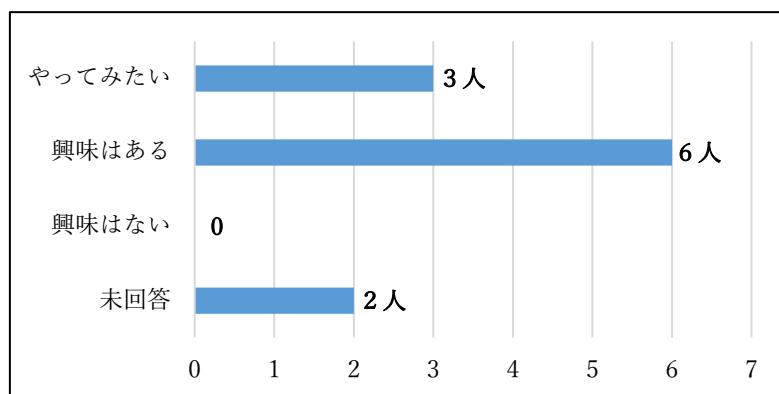
参加者 1：グループワークの時間ももう少し欲しかったけれど、グループ外の人とは全く繋がりを得られなかったので、何か他にグループでミニゲームをするようなレクリエーションに時間があればよいと思いました。

参加者 2：奈良、寧波、済州の3都市とも、世に自慢できる名所がたくさんあることが分かったので、学生がツアーガイドみたいになって、自国の名所をめぐって案内するオンラインツアーのようなことができれば楽しいかなと思います。

参加者 3：それぞれの国の家庭料理を再現すること。

参加者 4：それぞれの国から発祥したスポーツや、人気のスポーツについて紹介し合うこと。

⑥来年度以降、NARA クラスプログラムの企画や運営を手伝っていただくボランティアを募集することを検討しています。当プログラムのボランティアについてどう思いますか？



令和3年度事業 成果と課題

<成果>

- 本プログラムは日中韓の文化の力による平和構築をめざした「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業を契機として始まったものである。昨年度に引き続き、感染症流行の影響によりオンラインという形になったが、ワークショップやグループワークを通して各国、各都市の文化に触れることができ、相互理解につながる内容であった。
- 昨年度はグループワークがメインの交流であったが、今年度は3都市交流ワークショップのみならず、奈良市参加者限定でオフラインでの文化交流ツアーも開催したため、参加者の文化への理解をより深めることができた。
- コロナ禍において様々な活動が制限される状況下で、昨年度とはまた異なった文化交流を実施できたため、新しい国際交流のあり方を示すことができた。
- オンライン交流によって言語的コミュニケーションの必要性が高まり、英語学習の大切さを再確認する参加者が多かった。そのため、参加者の英語学習及び国際交流への意識の向上に寄与することができた。
- 希望者に限りメールアドレスなどの連絡先を中韓参加者と交換し、また参加者同士でメッセージカードを書いて送り合った。本事業終了後も継続的な交流につながることを期待できる。
- 事務局で撮影した交流の様子の写真や動画を参加者と共有した。活動記録を共有することで、参加者自身が本プログラムで学び得たことを記録として残し、異文化交流や国際交流への意識が維持されることが期待される。

<課題>

- 画面越しの交流となったため、表情が分かりにくく会話がスムーズに進まないようであった。特に英語能力に自信がない参加者は苦勞している場面が見受けられた。
- 成果報告会の準備などは参加者各自で連絡をとりながら進めていたので、連絡がとれないなどの相談があり、対応に迫られた。
- 昨年度に引き続き今年度もグループワークを行ったが、ほとんどのグループが音楽に関するワークテーマを選択するなど、偏りがあった。3都市の事務局の相談によりテーマ設定を行ったが、選択が分散するように工夫が必要であったと考える。また、好きな曲を紹介することに終始したグループが多かったため、テーマやグループワーク中の事務局によるサポートの仕方を見直す必要がある。

奈良市文化振興課
奈良市二条大路南一丁目 1-1
☎0742-34-4942 📠0742-34-4728
令和4年 月